

未来に向かって 一人ひとりが輝く北っ子！

掃除を頑張って、チューラパンタカになろう！

ことのほか寒かった今年の冬。冷たいバケツの水に手をつっこみ、ぞうきんをしばり掃除をするのにはなかなか気合が必要です。そもそも、学校で掃除をしている国は少ないと聞いたことがあり、調べてみました。NHK「ちこちゃんに叱られる」によると、世界で学校で掃除をしている国は



日本、韓国、中国、エジプト、シンガポールの5か国。では、どうして学校で掃除をするようになったのか。ちこちゃんによると「チューラパンタカになりたいから」だそうです。

昔、お釈迦様の弟子、チューラパンタカがお経を覚えられず、皆からばかにされて泣いていました。そこに現れたお釈迦様から、掃除をするように言われます。そして、3年間ずっと掃除を続けたチューラパンタカはある日気づきます。「毎日掃除しても塵や垢は全く無くならない。そうか！これは心の塵、心の垢と同じなんだ！だから毎日心を磨き続けなくてはならないんだ！」そうして立派な僧になった彼の話から、お寺で掃除をするようになり、それが今も学校の掃除へと続いているそうです。

現在は仏教の修行の一環として掃除をしているわけではありませんが、寒い中でも一生懸命掃除をしていると、心もすっきりしてきてチューラパンタカに近づいた気持ちになります。くらしの広場で、この話を子ども達に紹介しました。

人と比べず、じっと見守り、じっと待つ

これまた、NHKで「カムカムエブリバディ」が再放送されています。私は、この話のなかに出てくる「あんこのおまじない」がとても好きです。和菓子屋に伝わるおまじないです。子育てと同じだと思うからです。

和菓子屋の主人は、ぐつぐつ煮立った小豆の鍋を混ぜながらこのおまじないを唱えます。それを見守る弟子の職人さん達。そして、ある時「よし。」と言って鍋を火から下ろします。

【あんこのおまじない】

小豆の声を聴けえ。

時計に頼るな。

目を離すな。

食べる人の幸せそうな顔を
思いうかべえ。

おいしゅうなれ。おいしゅうなれ。

おいしゅうなれ。おいしゅうなれ。

その気持ちが小豆に乗り移る。

甘えあんこができあがる。

子どもの様子をじっと見守る。人と比べずじっと待つ。成長した子の姿を思い浮かべながら「大きくなれ」「大きくなれ」。その気持ちはいつか子どもに乗り移っていく。そして、もう充分だと思った時、「よし。」と言って手放していく。とても難しいけれど、とても大切なことだと、このおまじないは教えてくれているようです。



ミシン補助ありがとうございました。

今年度の行事も、卒業式と修了式を残すのみとなりました。保護者の皆様、地域ボランティアをはじめとする地域の皆様、様々にお世話になりありがとうございました。多くの方々に見守られ、北っ子達はすくすくと成長しています。来年度も、どうかご協力・ご支援いただきますようよろしくお願いいたします。